

第5学年 体育科学習指導案

単元名

器械運動「マット運動」

1. 目標

(1) 関心・意欲・態度

- ・自分に適したためあてを持ち、場や練習の仕方を工夫しながら意欲的に学習することができる。

(2) 伝え合う力

- ・お互いの動きを見合い、友だちの体の使い方の良いところを見つけたり、お互いに助言し合ったりしながら話し合うことができる。

(3) 教科のねらい

- ・自己の能力に適した技に取り組み、安定した動作で支持・回転ができる。
- ・技の特性を理解し、自分の身のこなしに足りないものを見つけ、技を習得できるよう練習に取り組むことができる。
- ・互いに励まし合って運動したり、器械・器具の使用のしかたを工夫して、安全に運動したりすることができる。

2. 指導計画（全7時間 本時7 / 10時間）

第一次 今までに学習した技を確認しよう。

第1時 前転・後転の動きの大切なポイントを確認して、技能を上達させよう。

第二次 とび前転に挑戦してみよう。

第1時 とび前転の動きの特性を理解して、練習しよう。

第2時 お互いの動きを見合い、課題を見つけて練習しよう。

第3時 お互いの動きを見合い、課題を克服できるよう工夫して練習しよう。

第三次 開脚前転をマスターしよう。

第1時 開脚前転の動きの特性を理解して、練習しよう。

第2時 お互いの動きを見合い、課題を見つけて練習しよう。

第3時 お互いの動きを見合い、課題を克服できるよう工夫して練習しよう。（本時）

第四次 開脚後転をマスターしよう。

第1時 開脚後転の動きの特性を理解して、練習しよう。

第2時 お互いの動きを見合い、課題を見つけて練習しよう。

第3時 お互いの動きを見合い、課題を克服できるよう工夫して練習しよう。

3. ICT 機器活用 の意図

- ・デジタルカメラの動画撮影機能を用いることで、自分の動きを客観的に確かめることができる。
- ・動画を動画ポートフォリオとしてまとめ、授業の足跡を残すことができる。
- ・デジタルコンテンツを活用することで、技のポイントを視覚的に分かりやすく理解することができる。
- ・デジタルビデオカメラで撮影した映像を、DVD再生機の遅延再生機能を活用し、その場で自分の動きを確認することで自分の課題に気づき、技能の向上を図ることができる。

4 . 本時の学習

ねらい

- ・自分の技能が向上するポイントに気付き、技能が上達するよう工夫して練習に取り組むことができる。(思考・判断)
- ・お互いの動きを見合い、友だちの体の使い方の良いところを見つけたり、お互いに助言し合ったりしながら話し合うことができる。(伝え合う力)

展開

段階	学 習 活 動	教師の支援と評価基準	準 備 物 等
つかむ	1 準備運動 (体ほぐし、手足走り、ゆりかごなど)	・開脚前転をする上で、必要な筋肉をほぐし、開脚前転の基礎となる動き(運動感覚)を意識できるように留意する。	・パソコン ・LANケーブル ・プロジェクター ・スクリーン ・ワークシート
	2 デジタルコンテンツ(開脚前転の模範演技)を見て、開脚前転のポイントを確認する。 3 前時の終わりに見つけためあてを確認する。	・デジタルコンテンツを見ながら、技のポイントや注意点を児童に確認するよう促す。 ・自分の技能が向上するポイントに気付いているか確認する。	
	お互いの動きを見合い、教え合いながら工夫して練習しよう		
ふかめる	4 班ごとに練習に取り組み、技のレベルを高める (1)お互いの技を見合い、それぞれのめあてにそった助言をしながら練習する。 ・今日のめあてを班の中で言い合い、お互いのめあてを確認する。 ・一人ずつ練習に取り組み、めあてとしているポイントができているかを班の中で話し合う。 (2)自分の身のこなしに足りないポイントを克服できるよう工夫して練習する。 ・自分や友だちができていない身のこなしを身に付けるために、必要なポイントを教え合い、それにあった場で練習に取り組む。 ・つまずきに合った場で繰り返し練習し、身のこなしが上達したか友だちに見てもらう。 (3)今の自分の姿をビデオで見て、身のこなしを確認する。 ・意識して練習したことが、実際の身のこなしに現れているかどうかをビデオの遅延再生を見ながら確かめる。 (4)本時のまとめの技をデジタルビデオカメラで撮影する。 ・動画撮影機能を使って、お互いの技を撮影し合う。 ・班内でお互いの技を見合い、練習の成果を認め合う。	・できている所を認め、めあてにそった助言をしながら教え合うよう支援する。 <評価基準>(思考・判断) A:場の工夫や、技のポイントを意識しながら効果的な練習ができ、技のレベルの向上が見られる。 B:技のポイントや自分の課題を意識して練習できている。 C:自分の課題を意識して練習できていない。 <評価基準>(伝え合う力) A:つまずきや課題を相手に分かりやすく説明したり、助言したりできる。 B:友だちのつまずきに気付くことができる。 C:友だちのつまずきに気付くことができない。	・デジタルビデオ ・プロジェクター ・DVD再生機 ・スクリーン ・デジタルカメラ
まとめる	(5)まとめの技を見て、本時の授業の振り返りをする。 ・動画をパソコンに取り込み、各自で自分の動きを確かめる。 ・動画を見て、自分のめあてが達成できていたかどうか振り返る。 ・振り返りをして、できるようになったことや気付いたことをワークシートに書く。	・自分のめあてに合った視点で振り返るよう指示する。 ・どうしてできるようになったのか、どこを意識して練習すればできるようになるのかを考えて書くよう指示する。 ・開脚前転をマスターするための自分なりのポイントを書くように指示する。	・パソコン ・デジタルカメラ ・ワークシート

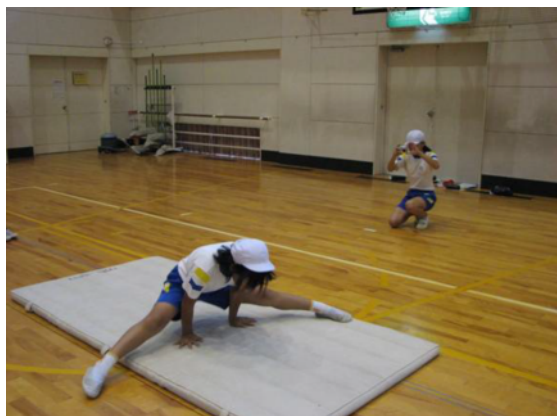
< ICT 機器の活用場面 >



[デジタルコンテンツの活用]



[デジタルビデオカメラの映像の遅延再生]



[デジタルカメラでの動画撮影]



[パソコンでの自分の動きのふり返し]

< 場の設定 >

